

令和4年11月17日開催

地域活力・市民生活向上特別委員会

委員長報告

令和4年12月定例会

委員長 吉田英司

去る11月17日に開催されました当委員会の審査概要について、順次ご報告申し上げます。

初めに、報告事項の1「(仮称)東川口駅前行政センター設置事業の進捗状況について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

本事業における工事は予定通り順調に進んでおり、現在、7階部分を施工中であるとのこと。

同センター内に配置予定の会議室については、空いている時間に市民に貸し出す予定であるほか、発電機能付きのLPガス式空調設備を導入することで、災害時には、一時的な避難場所や帰宅困難者の受け入れ場所としての使用が可能となるとのこと。

また、1階出入口付近には、ブックポストを設置する予定であるとのこと。

今後は、令和5年11月に本体工事が終了し、引き渡し後、内装工事や備品搬入等の開所準備を行い、令和6年5月7日に開所予定であるとのことでありました。

以上のような説明に対して、会議室を市民に貸し出す際の制限について問われ、これに対して、営利目的の利用等は制限するものの、可能な限り広く利用を認めていく予定であるとのことでありました。

このほか、川口駅前行政センター及び各支所におけるLPガス式空調設備の導入状況について等、質疑応答の後、本報告を終了いたしました。

最後に、報告事項の2「農業施策について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

まず、川口市農業基本計画について、今年度末に現計画の計画期間が終了することから、新たに令和5年4月から令和15年3月までの10年間を計画期間とする「第2次川口市農業基本計画」を策定するとのこと。

策定にあたっては、農業者及び市民のニーズを取り入れるため、農地基本台帳に登録のある農業者や任意に抽出した市民にアンケート調査を行なったほか、農業団体等との意見交換会やヒアリングも実施したとのこと。

計画においては、将来像として、「農が誇れるまち 川口」を引き続き掲げ、「伝統ある川口農業の経営安定・向上」、「次世代につなぐ持続的な農地の保全と活用」、「『農ある暮らし』を楽しみ・守る」及び「多様な連携による新しい価値の創出」の4つの基本方針に基づき、施策を展開するとのこと。

今後は、本年12月にパブリックコメントを実施し、その後、農政審議会の審議を経て、令和5年3月に策定予定であるとのこと。

続いて、国際園芸博覧会(フロリアード)について、本市では、花きのPRや販路拡大等を目的として、1982年の初出展以来、今回で5回連続での出展と

なったとのこと。

今回は、「成長する緑の都市 (Growing Green Cities)」をテーマに、オランダ王国アルメーレ市において、本年4月14日から10月9日までの179日間開催されたとのこと。

開催期間中の催事として、まず、9月5日及び6日に、川口市フロリアード2022出展実行委員会が、植木剪定及び本市花き文化等に関するPRパンフレットの配布を行なったとのこと。

翌7日はジャパンデイとして、公式式典が催され、日本、オランダ両国の挨拶のほか、2027年横浜国際園芸博覧会に関するプレゼンテーションが行われ、その後のレセプションでも、各国関係者が交流を深めたとのこと。

続く8日及び9日には、日本国や川口市フロリアード2022出展実行委員会による催事として、植木剪定やベーゴマ体験等が催されたとのこと。

また、日本国の展示館については、「SATOYAMA Farm Garden (里山の農家の庭)」をテーマとし、本市は、その一面に「川口安行風趣の庭」をテーマとする「おもてなしの庭」を出展したとのことでありました。

以上のような説明に対して、農地集積に向けた取り組みについて問われ、これに対して、令和5年度及び6年度に、担い手確保や将来の農地のあり方について、地域の農業者等と協議して、農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画を策定し、農地集積を図っていくとのことでありました。

このほか、花きの販路拡大に向けた取り組みについて等、質疑応答の後、本報告を終了し、委員会審査を終了した次第であります。

以上で報告を終わります。